

# 第4学年 社会科 学習指導案

期 日 平成23年10月19日(水)第5校時  
場 所 美里町立中央小学校 4年1組教室  
指導者 教諭 須藤 隆

1 単元名 「きょう土につたわるねがい」 (東京書籍)  
小単元名 「きょう土にかける橋」

2 単元について

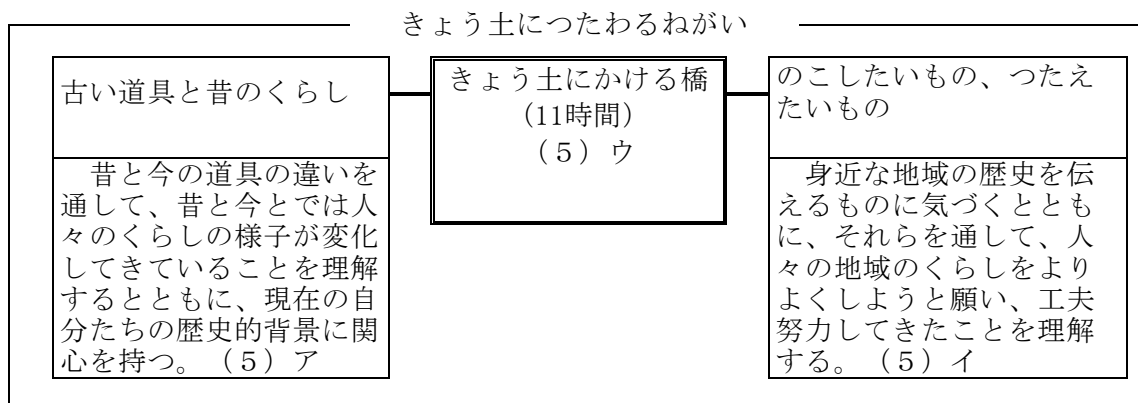
(1) 単元観

本小単元は、学習指導要領の内容(5)「地域の人々の生活について、次のことを見学、調査したり年表にまとめたりして調べ、人々の生活の変化や人々の願い、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えるようにする」のウ「地域の発展に尽くした先人の具体的事例」を受けて設定されている。

ここでは、篠原善兵衛により造られた日本最大の単一アーチ石橋である「霊台橋」と布田保之助により造られた通水橋である「通潤橋」を取り上げる。それを児童が資料の読み取りや地域の人からの聞き取りを通して主体的に調べることで、当時の人々の願いをかなえるために行動した篠原善兵衛や布田保之助の功績や、人々のくらしが向上したことを学び、自分たちの住む郷土に誇りや愛情を持つことができると考える。さらに、追求活動の中で必要な資料を活用したり、聞き取り調査をしたりする力も高められるものと考え。以上のことから、昔の人々のくらしの様子や人々の願いなど、地域の歴史に目を向けさせることができる教材であると考え。

(2) 系統観

本小単元の系統は次の通りである。



(3) 児童観

本学級は、男子14人、女子20人、計34人である。

【社会科学習に関する意識】

①社会科学習は好きですか。							
大変	15人	割と	15人	余り	4人	全然	0人
②社会科学習に進んで取り組んでいますか。							
大変	4人	割と	27人	余り	3人	全然	0人

社会科学習に対しては全体的に好意的に捉えている児童が多い。そのため、これまでの学習に対しても積極的に取り組むことができたとする児童が多い。しかし、その理由として「地図がおもしろい」「都道府県ゲームが楽しい」等が多く、学習内容自体の興味・関心は高くない。

【学習内容に関する意識】

①中央や美里町のいろいろなことを調べてみたいですか。							
大変	25人	割と	8人	余り	1人	全然	0人
②霊台橋のことを知っていますか。							
知っている	2人	見たことはある	2人	聞いたことはある	13人	知らない	17人
③通潤橋のことを知っていますか。							
知っている	3人	見たことはある	3人	聞いたことはある	10人	知らない	18人

自分たちの住む地域について調べることに對して、興味・関心が高いことが分かる。今回取り上げる霊台橋や通潤橋については多くの児童の関心が低いことが分かる。

【学習方法に関する意識】

①中央や美里町の人からたくさん話を聞いてみたいですか。							
大変	12人	割と	17人	余り	5人	全然	0人
②中央や美里町の人にたくさんインタビューしてみたいですか。							
大変	14人	割と	16人	余り	3人	全然	1人
③ICTを活用した学習は好きか。							

大変	32人	割と	1人	余り	1人	全然	0人
④ICTを活用した授業は分かりやすいか。							
大変	23人	割と	11人	余り	0人	全然	0人

自分たちの住む地域の人々から話を聞いてみたいという児童が半数以上いることが分かる。学習内容に対する意識と同様に、地域の人材を生かした学習に興味・関心が高いことが分かる。ICTを活用した授業に対しても興味・関心が高いことが分かる。

【県学力調査の結果から】

熊本県学力調査では、「社会的事象への関心・意欲・態度」の観点で県平均に対して学級平均が大きく下回り、他の三観点は上回る結果となった。また、主に「活用」に関する問題の定着率が、県平均に対し学級平均がやや下回った。

(4) 指導観

本単元の学習にあたっては、次の点に留意する

【視点1：ICTを効果的に取り入れた学習活動の工夫】

- ・ 霊台橋の学習では、石一個の重さ（約2 t）や霊台橋の大きさ（幅約90m）、匠者を在中させていた事実等を写真と一緒に提示し、その難事業を感じさせることで、霊台橋への興味・関心を高め、学習への意欲付けを行うようにする。
- ・ 通潤橋では、霊台橋と通潤橋の2枚の写真を提示し比較させることで、その共通点や相違点に気付かせ、新しい問いを持たせるようにする。

【視点2：思考力・表現力を高める言語活動】

- ・ 学習課題をつかむ場面では、浮世絵に描かれた木橋である日本橋を取り上げ、石橋である霊台橋と比較することにより、子どもたちの思考の中に問いを持たせ、学習課題につなげるようにする。
- ・ 学習課題に対する予想を立てることで、調べる対象への焦点化を図る。また、その後解決の方法を考えることで、学習の見通しを持たせるようにする。
- ・ 学習を深める場面では話し合い活動を取り入れるようにする。その際、対話活動を取り入れ、児童一人一人が自信を持って意見を出し合えるようにする。また、対話活動後に再度自分の考えを見直す時間を設定することで、他の人の意見を聞いたことで自分の考えを広げたり深めたりする。
- ・ 取り上げる地域教材として霊台橋と通潤橋の二つを取り上げるため、2段階の学習過程を取り入れる。その際、同じような学習の流れや調べ学習の視点、学習方法を取り入れることで、両者を比較できるようにし、前段階で学習したことを活かせるようにする。

Bプロジェクト 学習評価と指導の改善の視点から	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指導計画に評価計画（評価の観点、評価基準、評価方法、評価場面）を取り入れる。また本時では十分満足できる基準（A基準）やB基準に達していない児童への手立てを具体的に記載することで、指導と評価の一体化を図れるようにする。</li> <li>・ 自己評価を行い学習を振り返る時間を設定することにより、児童の関心・意欲・態度の高まりなどの学習状況をつかむことができるようにする。また、その状況により、支援が必要な児童に対しては個別に対応し、適切な支援を行うようにする。</li> <li>・ 教材作成ソフトを使い、毎時の学習の記録を残すことで、「社会的事象に対する興味・関心・意欲」や「社会的な思考・判断・表現」を評価する手助けとし、指導の改善を図る。</li> </ul>	

3 単元の目標と評価規準

単元の目標	霊台橋や通潤橋について理解するとともに、それを造った篠原善兵衛や布田保之助の苦労や工夫、また地域をよりよくしていこうとした思いを理解する。
社会的事象への関心・意欲・態度	①霊台橋を造った篠原善兵衛や通潤橋を造った布田保之助の功績に興味を持ち、その苦労や工夫、地域の人々の願いを進んで調べている。 ②篠原善兵衛や布田保之助の生き方に関心を持ち、自分たちの住む地域に対する誇りや愛情を持って、よりよい発展を考えようとしている。
社会的な思考・判断・表現	①霊台橋や通潤橋の写真等から、学習課題や予想、調べることを考え、学習計画を立て、表現している。 ②地域の人々の願いや生活の向上と、篠原善兵衛や布田保之助の功績や人柄について、関連付けて考え、適切に表現している。
観察・資料活用の技能	①資料を使ったり、詳しく知っている地域の人から話を聞いたりして具体的に調べている。 ②調べて分かったことをノートや学習シートに分かりやすくまとめている。
社会的事象についての知識・理解	①篠原善兵衛や布田保之助の働きが、当時の人々にとって生活の向上、発展につながったことを捉えている。

4 指導計画 (11 時間扱い 本時 1 / 11)

次	時	学習活動	指導上の留意点 ※Bプロジェクトの視点から	評価基準 (基準B) (評価方法)
1	1 (本時)	○霊台橋のことを知り、学習課題をつかみ、予想を考え、学習の方向性を明確にする。	・霊台橋の写真を見せ、大きさや一つの石の重さ、人物等を知り、霊台橋の学習に対する関心を高め、調べ学習への意欲付けを行うようにする。 ※教材作成ソフトを用い、発表を記録する。	<b>関心・意欲・態度①</b> (学習シート・観察・自己評価シート) 霊台橋の写真や施工期間等から学習課題をつかみ、課題に対する予想を考えようとしている。 【予想を考え書いている場面】
	2	○学習課題から自分が調べることを考え、調べ学習の計画を立てる。	・学習課題から自分の調べることを考え、それを発表させながら整理し、調べる視点を明確にする。	<b>思考・判断・表現①</b> (学習シート・観察) 自分の調べることを考え、調べる視点を整理しながら、課題解決の方法を考え、学習計画を立てている。 【予想を考え書いている場面】
	3	○霊台橋が造られたわけやその造られ方等について地域の人材からの聞き取り調査を行う。	・調べる視点ごとにメモ欄を設けた学習シートを活用させる。話の中で課題解決に繋がる所では教師が介入し、ポイントを整理させるようにする。	<b>技能①</b> (学習シート・観察) 霊台橋について、造られた時期や人物、方法等の調べる視点に沿って大事なところをまとめながら調べている。 【分かったことをまとめる場面】
	4			
	5	○調べたことを発表して学習課題を解決し、霊台橋のことについてまとめる。	・篠原善兵衛の働きにより、地域の人々が険しい急流を渡ることができるようになったことを押さえるようにする。	<b>知識・理解①</b> (学習シート) 当時の人々の生活の向上が、霊台橋を造った篠原善兵衛たちの思いや願い、努力や苦労によることを理解している。 【感想をまとめる場面】
2	6	○霊台橋と通潤橋との比較をもとに、学習課題をつかみ、予想を考える。	・通潤橋の写真を提示し、霊台橋との共通点や相違点を話し合い、学習課題に対する予想を考え、調べ学習への意欲付けを行うようにする。	<b>関心・意欲・態度①</b> (学習シート・観察・自己評価シート) 霊台橋と通潤橋の比較から新しい問いを持ち、学習経験や生活経験から予想を考えている。 【調べることを書いている場面】
	7	○学習課題から自分の調べることを考え、調べ学習の計画を立てる。	・学習課題から自分が調べることを考え、それをまとめながら調べる視点を整理する。また、そこから学習計画を考えさせるようにする。	<b>思考・判断・表現①</b> (学習シート・観察) 自分の調べることを考え、調べる視点を整理しながら、課題解決の方法を考え、学習計画を立てている。 【調べることを考え書いている場面】
	8	○通潤橋について資料を使って調べたり、地域の人材から聞き取り調査をしたりする。	・調べる視点ごとにメモ欄を設けた学習シートを活用させる。最初に資料を使って調べ、調べることができなかつたところを聞き取り調査を行う。	<b>技能②</b> (学習シート・観察) 資料を読んだり、地域の人材から話を聞いたりしながら、課題ことに沿ってまとめている。 【分かったことをまとめる場面】
	9			
	10	○調べて分かったことを発表し、通潤橋を造った人びとの思いや願いについてまとめる。	・布田保之助の働きにより、白糸台地の人々が水を心配することなく稲作ができ、生活の向上を図ることができたことを押さえるようにする。	<b>知識・理解①</b> (学習シート) 当時の人々の生活の向上が、通潤橋を造った布田保之助たちの思いや願い、努力や苦労によることを理解している。 【感想をまとめる場面】
3	11	○篠原善兵衛と布田保之助との生き方から、両者の地域に対する思いなどを考える。	・これまでの学習したことを調べる視点ごとに比較しながら、篠原善兵衛と布田保之助の生き方に焦点を当て、両者の郷土に対する思いを考えさせるようにする。	<b>思考・判断・表現①</b> (学習シート・観察) 霊台橋と通潤橋について調べたことを比較しながら、地域の人々の生活の向上が、先人たちの働きや苦労にあることを関連づけて考え、表現している。 【分かったことや感想をまとめる場面】

5 本時の学習

(1) 目標

霊台橋の様子や浮世絵に描かれた日本橋の様子等から学習課題をつかみ、その課題に対して予想を考えようとしている。

(2) 評価基準 関心・意欲・態度①(学習シート・観察・自己評価シート)

(基準B) 学習課題に対して自分なりの予想を考えようとしている。

(基準A) 学習経験や生活経験を活かしながら、具体的な理由を基に予想を考えている。

(3) 展開

過程	学習活動	主な発問・指示等	指導上の留意点・評価 ※Bプロジェクトの視点	備考
導入 18分	1 霊台橋について知る。	○これは何かな。  ○写真を見て気付いたことはありますか。	○霊台橋の写真を基に、その大きさ(幅約90m、高さ約16m)や造られた年代(1847年、江戸後期)、施工期間(約7か月)石一個分の重さ(約2t)などを提示し、さらに、医者を常駐させたことを知らせることで当時の人々にとっては難事業であったことを押さえるようにする。 ○江戸時代後期の浮世絵に描かれている木橋から当時の多くの橋が木を使った橋であったことを押さえる。 ○石橋と木橋との特徴を整理し比べることで、木を使った橋が比較的簡単にできるのに、篠原善兵衛は石を使ったことに問いを持たせ、学習課題につなげるようにする。	教材作成ソフト 霊台橋の写真
展開 22分	2 木橋について知る。	○気付いたことはありますか。	【関心・意欲・態度①(学習シート・観察[教材作成ソフト]・自己評価シート)】 (B基準に達していない児童への手立て) 友達のを参考にさせ、学習課題を意識させるようにする。 ・学習課題は何だったかな。 ・木橋と石橋の違いは何だったかな。  ※予想した理由を具体的に考えさせる。	浮世絵の日本橋 東海道53次フラッシュカード
	3 学習課題をつかむ。	○学習シートに記入させる。		学習シート
	篠原善兵衛はなぜ石で霊台橋を造ったのだろうか			
展開 22分	4 学習課題に対して予想をする。	○なぜ石で霊台橋を造ったのかな。		
	5 自分の考えた予想を発表し合い、調べる視点を整理する。 (1) 二人対話をする。 (2) 自分の考えを見直す。 (3) 全体で話し合いをする。	○二人で意見を発表したり、聞いたりする活動により、意見を比較させ、自分の考えを深めさせる。 ○学習課題に対する予想を発表し合い、それを比較・整理することで、学習への関心を高め、調べていく方向性を明確にする。	○複数の人と二人対話を行うことで、自分の意見に自信を持って発表できるようにする。 ○二人対話を行う際には、モデルとなる児童を取り上げたり、進め方を示したプリントを用意したりすることで、進め方を具体的に示していくようにする。 ○二人対話後に再度考える時間を設定することで、自分の考えを深めたり、広げたりできる時間を確保する。 ○発表をする際には、教材作成ソフトにより記録し、児童の関心・意欲・態度の高まりや思考の変容を捉えるようにする。 ○児童の意見を発表させながら整理し、調べる方向性を明確にしていくようにする。 (例)①造り方 ②造られた理由 ③人々の暮らし ④費用 ⑤人数 ⑥苦労や工夫	二人対話の進め方を示したプリント  美里町の石橋の写真
整理 5分	6 本時のふり返りと次時の予告を聞く。		○自己評価をさせることで、本時のふり返らせるとともに、次時の学習への意欲付けを行う。	自己評価シート